

育ての親が見えること。

私たち株式会社シフラは、日本全国の優れた生産者が参加する生鮮食品のブランド「顔が見える食品」を開発し、運営を支援しています。本日は、そのうちのひとつ、「顔が見えるお肉。」についてお話しさせてください。

日本には世界に誇れる食文化があり、品質の高い食材があります。おいしくて安心・安全なお肉は世界の人々から高い評価を得ていますが、それを支えているのは素晴らしい生産者たちです。

上の写真は、「顔が見えるお肉。」の代表的な生産者のひとりで、岩手県遠野市で「いわて遠野牛」を育てる佐々木学さん。遠野で生まれ育ち、幼いころから動物が好きで高校卒業後から牛の飼育に携わってきました。佐々木さんの牛を飼育する様は、まるでわが子を育てるよう。「自分がやらなければ」と親としての責任を強く持ち、大切に育てていることがわかります。忘れてしまいかがちですが、私たちが日々食しているお肉には必ず「育ての親」がいます。誰が育てたか。それはつまり、どんな環境で、どんな餌で、どのくらい大事に育てられたかということ。生産者の生きものに対する愛情、こだわりや情熱、誠実さこそが、お肉の品質を決めるのだと思います。

佐々木さんは持続可能性への意識も高く、JGAP（食品安全、環境の保全などのルールを遵守し、サステナブルな経営を行ったための生産工程管理の認証）も取得しました。また、地元を大切にしたいという想いも強く、遠野産の飼料米

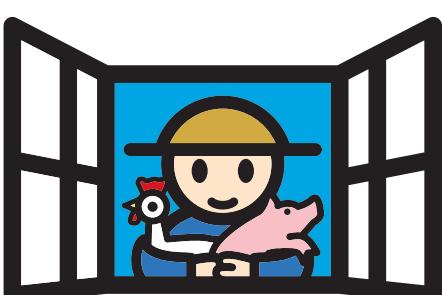
を餌に配合したり、副産物の堆肥を良質な肥料として地元農家に提供したりしています。実は、「顔が見える食品。」誕生のきっかけは、BSE事件や牛肉偽装事件などが相次ぎ、食への不安が大きくなつたこと。まさに「育ての親」が見えなくなり、その責任が放棄されたような出来事でした。「誰が育てたのか?」「どんなことがありましたか?」「どうなったのか?」。私たちには、それを伝えることが食への信頼につながると考えました。

独自のハイレベルな基準をクリアした生産者だけが参加できる仕組みをつくり、「日本を代表する生産者が集まつた特別なブランド」を目指して、20年以上、「顔が見える食品。」の取り組みを続けてきました。

「顔が見えるお肉。」で言えば、佐々木さんはもちろん、「奥州ハーブ育ち鶏」を育てる丸間澤孝博さん、「瑞穂牛」を育てる下山一郎さん、「北国四元豚」を育てる柴田英二さんをはじめ、たくさんの中の素晴らしい「育ての親」がこのブランドに参 加してくださいっています。

お客様が「顔が見える食品。」を買うことは、その生産者「育ての親」を応援することでもあり、「推し活」のような楽しみ方もできます。それは結果として、世界に誇る日本の食、サステナブルな日本の食を育てることにつながり、好循環を生み出していくはずです。

私たちシフラの理念は「日本の農と食を守ること」。優れた生産者とお客様を「顔が見える関係」にしていくことで、この理念を実現していくことを考えていました。



顔が見えるお肉。

「顔が見えるお肉。」は、イトーヨーカドー、ヨークフーズ・ヨークマートの各店舗でお買い求めいただけます。

*一部店舗ではお取り扱いがない場合がございます。

日本の生産地・生産者を感じるカレンダー「育む人」2025年版を作りました。詳しくはこちらから。



日本の農と食を守る
cifra

株式会社シフラ 東京都江東区富岡1-12-8 アサヒビル4F ☎ 03-335-0047 www.cifra.co.jp